

まほろば【校長室だより】

[文責]

校長 江口 尋信

読書週間(10月27日～11月9日)です

10月27日(月)から11月9日(日)は「第79回 読書週間」です。「読書週間」は戦後間もない1947年(昭和22年)、「読書の力によって、平和な文化国家をつくろう」という決意のもとで始まった運動で、今年が第79回目となります。今年は「こころとあたまの、深呼吸。」をテーマに、全国各地で読書に関するイベントや取組が行われています。

読書は、子どもの育ちに次のような効果があると言われています。

- 想像力が育つ
- リラックスできる
- 集中力が鍛えられる
- 語彙力が育つ
- 様々な知識を得る
- 読解力が育つ
- 論理的な思考力が育つ



読書週間のマーク

古代より、フクロウは知恵の象徴と考えられていました。静かで瞑想にふけるフクロウこそ読書にふさわしいと考えられ、シンボルマークになりました。

先週、新聞やニュース等で報道されていましたが、2024年にベネッセコーポレーションが行った小中高生と保護者を対象とした調査によると、「読書をしない(0分)」との回答が52.7%で、15年調査時の34.3%から1.5倍に増えています。一方、スマートフォンの使用時間は伸びており、スマートフォンの使用時間が長いほど本を読む時間が短くなる傾向があったということです。

わたしは、全校朝会で「校長先生の今年の目標は1週間に1冊、年間50冊の本を読むことです。」と宣言しました。現時点で27冊読みましたので、3月末までに残り23冊となりました。眠たい目をこすって読むこともあります。少しでも本を読むと充実した気持ちになれます。

読書の秋です。みなさんも、ご家庭で本を手取る時間をつくってみてはいかがでしょうか。

地域を学ぶ

本校では、毎年、6年生が総合的な学習の時間を使って地域の歴史について調べています。これまでは、大宰府跡や観世音寺などをフィールドワークすることで、古都「大宰府」について学んできましたが、今年は、本校の校歌や学校敷地内にある平重盛の墓、太宰府天満宮、参道と門前町、地域の伝統行事、九州国立博物館など、太宰府小学校区にある史跡や文化財、伝統行事等について調べるように学習内容を大きく変えました。子どもたちが「ふるさと」である太宰府小学校区の素晴らしさを

知り、誇りに思ってもらいたいと思っています。本日(5日)、古都大宰府保存協会学芸員の田中健一先生をお招きし、子どもたちに太宰府小学校区の史跡や文化財、伝統行事の概要について講話をしていただきました。その講話を受け、子どもたちの調べ学習が始まります。今回の学習では、下級生や保護者のみなさんに学習の成果を発表する機会をつくりたいと思っています。楽しみにお待ちください。



古都大宰府保存協会の田中先生に来ていただき、太宰府小学校区の史跡や文化財、伝統行事等について話をお聞きしました。